

# 時間表現理論／演習Ⅱ

選 択

開講年次：2 年次前期

科目区分：講義＋演習

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：本講義前半は、音を聴く体験を通して、音響体験の多様性と音の性質を理解する。さらに、課題作品の制作演習を通じて、コンピューターを使った音の生成、音響加工編集、サンプリングやリミックスによる音響表現の基礎を学ぶ。音の可能性を実感し、映像表現との関係を考えるうえでの基礎とする。

現在の映像表現は視覚情報だけでは成り立たない。本講義後半では前半で習得した音響表現を用いて、音響と映像の関係性をより深く習得する。映像と音響のもつ時間表現とは何かを考えつつ、音と映像の表現方法の可能性を探る。また、デバイスの違いによる映像・音響送出の適正化についても合わせて習得する。

- 到達目標**：①音響表現の基礎、サウンドシンセシスについて説明できる。  
②自身のアイデアにもとづく音響作品を制作し、指定された形式で提出できる。  
③映像と音との関係性、特にその効果を理解する。  
④ポストプロダクションと呼ばれる各種技術の習得

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎石田 勝也、須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 音とはなにか？  
第 2 回 フィールドレコーディングの実践  
第 3 回 音の調理  
第 4 回 ミュージックコンクレーートの制作  
第 5 回 音を作ってみる  
第 6 回 DAWの利用  
第 7 回 サウンドロゴの制作  
第 8 回 音と映像の関係性、課題オリエンテーション  
第 9 回 映像制作演習 コンテ制作  
第10回 映像制作演習 映像素材加工  
第11回 映像制作演習 粗編集（音との同期）  
第12回 映像制作演習 本編集1（リタイミング、色調補正、SE等）  
第13回 映像制作演習 本編集2（モーショングラフィックス、オーディオ補正等）  
第14回 映像制作演習 映像の書き出し・圧縮方法  
第15回 制作映像作品講評

■**教科書**：なし

■**参考文献**：講義中に適宜紹介します

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	到達目標④		
授業内演習・レポート		◎				20
発表			◎			40
出席		◎			2/3以上の出席必須	40
その他						

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：時間表現理論／演習Ⅰ、メディア芸術論、空間演出デザイン論、空間映像表現

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次に行った時間表現理論Ⅰを基本として、映像と音の関係性を身につけることを目標とします。現在放映されているテレビCMやプロモーションビデオ、映画に至るまで映像における音の重要性に着目しておいて下さい。